

厚生労働科学研究費（地域医療基盤開発推進研究事業）
地域における歯科疾患対策を推進するためのニーズの把握および
地域診断法を用いた評価方法の確立のための研究
令和3年度 分担研究報告書

自治体の特性と地域歯科保健活動に関するテキストマイニング分析 — 歯周病、高齢期の口腔機能、障害児・者への歯科保健サービスにおける分析 —

研究分担者 三浦 宏子 北海道医療大学歯学部保健衛生学分野 教授
研究代表者 福田 英輝 国立保健医療科学院 統括研究官

研究要旨

【目的】 昨年度の自治体での歯科保健活動に関する調査の自由回答についてテキストマイニング分析を行い、自治体の特性に応じた歯科保健対策の実施体制の拡充に役立つ知見を得る。

【方法】 2021年度の全国市区町村に対して実施した「成人期における歯周病」、「高齢期における口腔機能低下」、「障害児・者における歯科疾患対策」の調査データのうち、上記3課題の現状と課題に関する自由回答テキストと自治体区分の関連性について、単語頻度分析、特徴語抽出、ことばネットワーク分析によるテキストマイニングを行った。

【結果】 歯周病対策については、歯周疾患検診を中心にトピックスが集約できた。課題認識に基づく具体的な次の対応策に関しても抽出できた。また、人口1.5万人以下の自治体では歯周疾患検診・歯科保健指導の担い手の確保が大きな課題として認識されていた。口腔機能対策では口腔体操が高頻度に抽出され、一般高齢者施策での運用実績を裏付けるものであった。その一方、具体的な口腔機能低下者の把握等を担う人材確保に関する単語が抽出された。障害児・者への歯科保健サービスについては、障害者の歯周病対策や医療機関との連携が抽出されたが、歯周病対策や口腔機能対策と比較して、その傾向を十分に把握することはできなかった。

【結論】 テキストマイニングの結果、歯周病対策と口腔機能対策では自治体の規模によって認識している課題に明らかな差異が認められた。一方、障害児・者への歯科保健サービスへの対応策については各自治体での取り組みが多様であり、現時点では集約化に限界があった。

A. 研究目的

2021年度に本研究事業にて実施した自治体に対する歯科口腔保健対策の実態調査の結果、「成人期の歯周病対策」「高齢期の口腔機能低下対策」「障害児・者への歯科保健サービス提供」の3点についての実施割合は、自治体の規模によって大きく異なっていた。自治体規模がこれらの地域歯科保健対策に与える影響を把握するためには、数値データに基づく分析は不可欠であるが、潜在的課題を把握するためには、自由回答でのテキストデータを用いた定性的な分析は大きく役立つ。

テキストマイニングは、アンケート調査の自由回答などのテキストを、単語や文節等で分割して、その出現頻度の分析や特徴的な用語の抽出および各単語間の関連性を分析する手法である。これまでのアンケート調査の大きな問題点としては、自由回答記述内

容に関する十分な分析が不足していることが挙げられている。これらの問題点への解決策の一つとして、テキストマイニングを用いた分析が注目されている。

上述した事柄を踏まえて、本研究では、昨年度の自治体への歯科保健活動に関する調査の自由回答テキストを用いたテキストマイニング分析を行い、自治体の規模が「成人期の歯周病対策」「高齢期の口腔機能低下対策」「障害者・児への歯科保健サービス提供」といった地域歯科保健活動に及ぼす影響について定性的に把握した。

B. 研究方法

1. 分析データソース

2021 年度の本研究事業にて実施した全国市区町村に対する調査結果のうち、「成人期における歯周病」「高齢期における口腔機能低下」「障害者・児に対する歯科保健サービス」といった 3 領域の現状と課題についての自由回答テキストデータを用いた。

2. 自治体の属性区分

2021 年度の分析結果に準拠し、全国の市区町村を表 1 に示すように 5 つのカテゴリーに分類した。

表 1 対象とした市区町村の規模による属性区分

カテゴリー	自治体の特性	該当件数
カテゴリー 1	指定都市	14
カテゴリー 2	中核市、特別区、政令で定める市	70
カテゴリー 3	人口 5 万人以上の自治体	391
カテゴリー 4	人口 1.5 万人以上、5 万人未満の自治体	473
カテゴリー 5	人口 1.5 万人未満の自治体	559

3. 分析方法

自由回答テキストに対して自然言語処理を行い、単語を抽出できる状態にした。そのうえで、単語頻度、特徴語抽出、ことばネットワークの各分析を行った。単語頻度分析においては、テキスト中での単語出現回数を自治体カテゴリーごとに集計した。また、各自治体カテゴリーに特徴的に認められる単語についても抽出した。さらに、抽出した単語どうしの関係について、ネットワーク図を用いてクラスタリング表示を行った。これらの一連のテキストマイニング分析は専用ソフトウェア Text Mining Studio Ver 7.1 (NTT データ数理システム) を用いて行った。

4. 倫理的配慮

本研究では、2021 年度の本研究事業にて収集し匿名化を施した調査データのうち、自由回答欄に記載されたテキストデータを二次利用したものであり、本分担研究にて新規に収集したものではない。なお、2021 年度の調査については、昨年度の報告書に記載のとおり国立保健医療科学院の倫理審査委員会の承認 (NIPH-IBRA # 12295) を得たうえで実施している。

C. 研究結果

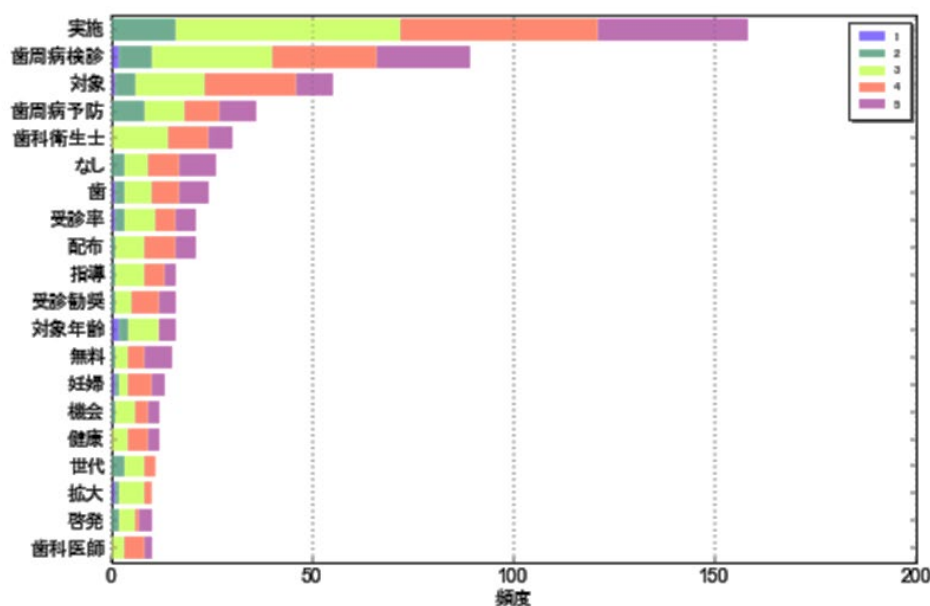
1. 成人期の歯周病対策

(1) 現状分析

① 単語頻度分析

歯周病対策の現状に関する単語頻度分析の結果を図1に示す。自治体カテゴリーごとの出現頻度の内訳については色分けして記載した。全体として、高い頻度で抽出された用語は「実施」「検診」「対象」であった。いずれの抽出単語についても、カテゴリー1の自治体では頻度が少なかった。

図1 成人期の歯周病対策の現状：単語頻度分析



② 特徴語抽出

歯周病対策の現状に関する自治体の規模カテゴリーごとの特徴語の抽出リストを表1に示す。他事業との連携実施に関する単語として、自治体カテゴリー2では「母子保健事業」、自治体カテゴリー4では「特定健診」が特徴的に抽出された。また、実施方法・体制に関する単語として、自治体カテゴリー3では「出前講座」、カテゴリー5では「集団」が抽出された。

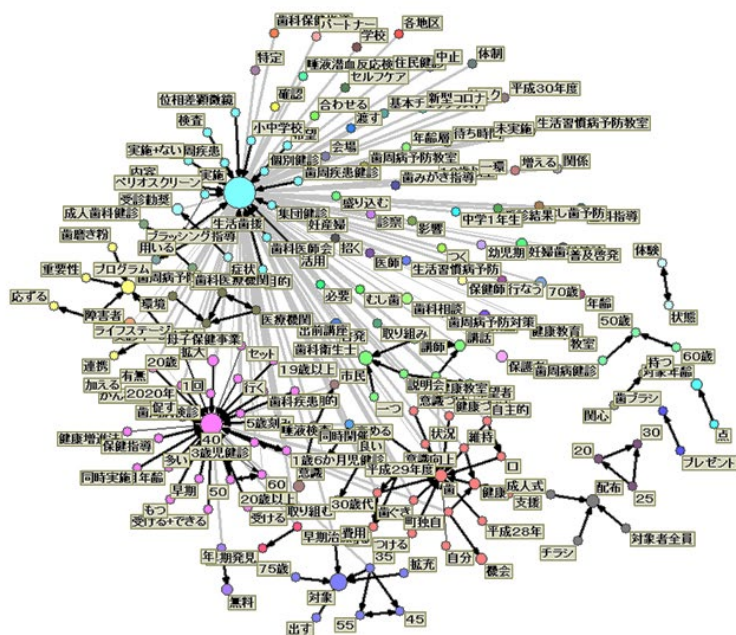
③ ことばネットワーク分析

歯周病対策の現状に関することばネットワーク図を図2に示す。ノード（集合点）を形成した単語のうち、「実施」は具体的な種々の実施方法と結びついていた。「検診」と結びついていたのは「同時実施」や「保健指導」などの単語であった。「対象」と結びついていたのは「45歳」や「75歳」等の歯周疾患検診の対象年齢の拡充に関する用語であった。

表 1 成人期の歯周病対策の現状：特徴語抽出

自治体カテゴリー1	指標値	自治体カテゴリー2	指標値	自治体カテゴリー3	指標値	自治体カテゴリー4	指標値	自治体カテゴリー5	指標値
対象年齢	10.733	歯周病予防	16.091	実施	10.403	対象	13.518	歯科指導	8.492
		成人歯科健康診査	9.389	歯科衛生士	9.172	デンタルフロス	6.885	無料	7.273
		加える	8.75	対象年齢	6.032	普及啓発	5.375	歯周疾患	6.832
		世代	6.833	拡大	5.907	受診勧奨	4.604	なし	5.42
		母子保健事業	6.259	含める	5.783	特定	4.528	40歳	5.076
		交付	5.94	健康教育	5.153	妊婦	4.419	早期発見	5.076
		状況	5.94	内容	5.091	歯科医師	4.235	80歳	4.539
		早期	5.94	かかりつけ歯科医	4.337	特定健診	4.235	小中学校	4.539
		同封	5.301	家族	4.337	基づく	3.866	集団	4.491
		連携	5.301	高齢者	4.337	歯周病予防対策	3.866	パンフレット	3.953
		取り組む	4.981	歯科保健指導	4.337	実施+ない	3.866	協力	3.953
		実施	4.702	実施+できる	4.337	幅広い	3.866	教室	3.953
		糖尿病	4.662	出前講座	4.337	用いる	3.866		
		啓発	3.703	指導	3.894	配布	3.464		
				5歳刻み	3.645	意識	3.203		
				歯肉	3.645	口腔内	3.203		
				受診券	3.645	歯科医師会	3.203		
				節目年齢	3.645				
				世代	3.078				
				集団	3.016				

図 2 成人期の歯周病対策の現状：ことばネットワーク

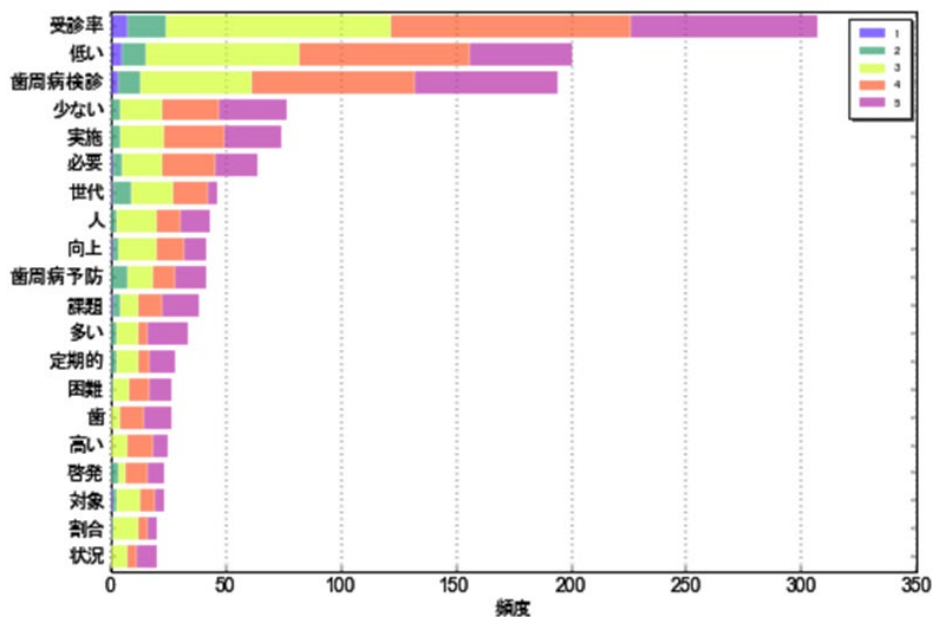


(2) 課題分析

① 単語頻度分析

歯周病対策の今後の課題として自治体が認識している単語の出現頻度を図3に示す。高頻度で抽出されたのは「受診率」「低い」「歯周病検診」であった。すべてのカテゴリーの自治体において、歯周疾患検診の受診率が強く意識されていた。

図3 成人期の歯周病対策の課題：単語頻度分析



② 特徴語抽出

歯周病対策の課題に関する自治体の規模カテゴリーごとの特徴語の抽出リストを表2に示す。他事業との連携実施の観点から、カテゴリー2の自治体では「連携」が特徴的に抽出された。実施方法・体制の観点から、カテゴリー5の自治体では「歯科医院」が特徴的に抽出された。

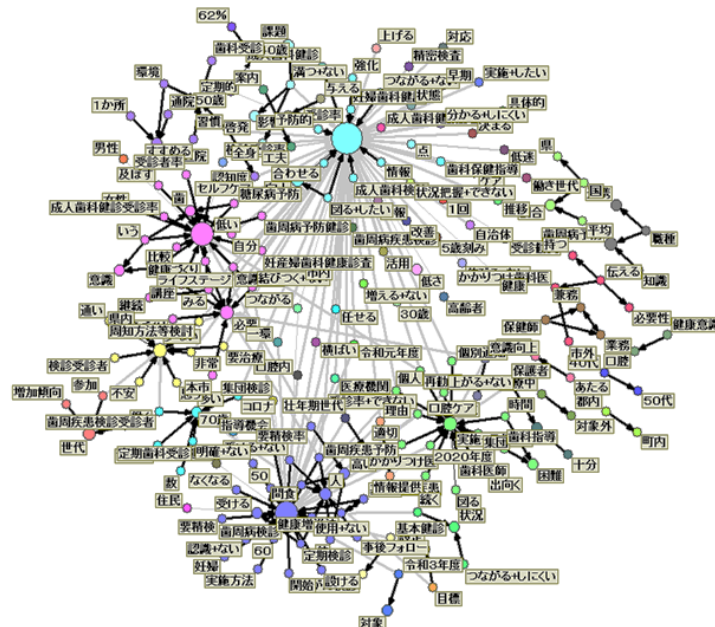
③ ことばネットワーク分析

歯周病対策の課題に関することばネットワーク図を図4に示す。ノード（集合点）を形成した単語のうち、「実施」は他事業と結びついていた。「低い」と結びついていたのは意識づけに関係する単語であった。「歯周病検診」と結びついていたのは実施対象者や実施方法に関連する単語であった。

表 2 成人期の歯周病対策の課題：特徴語抽出

自治体カテゴリー1	指標値	自治体カテゴリー2	指標値	自治体カテゴリー3	指標値	自治体カテゴリー4	指標値	自治体カテゴリー5	指標値
受診率	13.254	世代	17.846	低い	15.835	低い	24.853	歯科医院	15.801
低い	12.018	歯周病予防	15.405	受診率	13.419	歯周病検診	22.424	多い	15.65
		60歳	13.693	人	11.212	受診率	17.458	少ない	13.851
		連携	11.449	割合	10.954	低さ	9.308	課題	10.204
		効果的	10.691	向上	10.335	高い	6.882	歯	9.293
		70歳	9.286	世代	9.252	伸びる+ない	6.878	歯周病検診	9.067
		職種	7.127	対象	6.994	必要	6.486	住民	7.479
		40歳	6.847	歯周炎	6.529	考える	6.476	状況	6.636
		障害者	6.762	かかりつけ歯科医	7.876	実施	6.218	実施	6.411
		なし	6.566	有する	7.222	啓発	6.073	とる+しにくい	6.136
		啓発活動	6.566	年代	7.016	受診状況	6.07	確保	6.136
		継続	6.586	市	6.999	意識	5.667	村内	6.136
		50歳	6.285	進行	6.345	対策	4.722	定期的	5.793
		つながる	6.285	増加	6.345	受診動向	4.454	検討	5.524
				歯科健診受診率	5.468			不足	5.484
								受診動向	5.102
								個別	5.063

図 4 成人期の歯周病対策の課題：ことばネットワーク



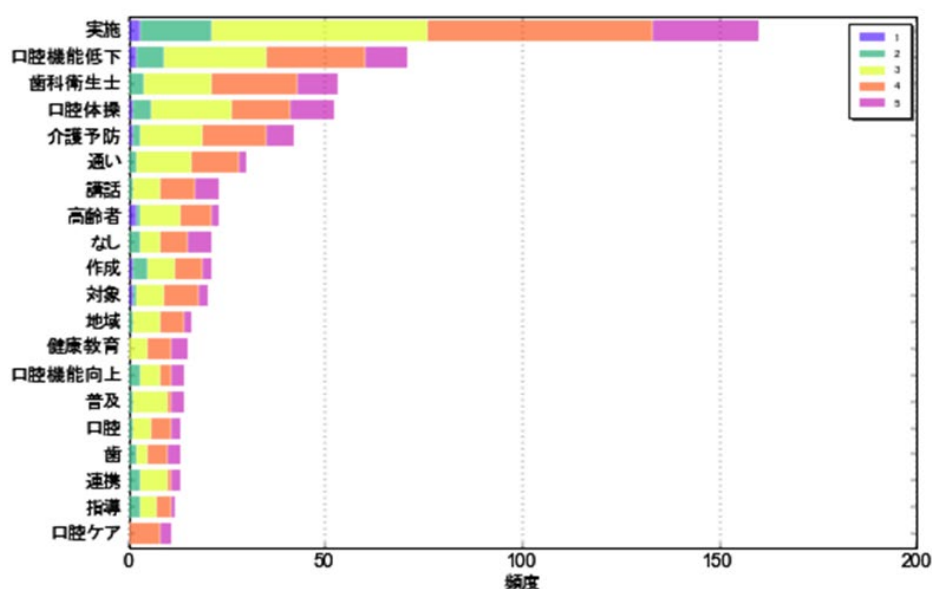
2. 高齢期の口腔機能低下

(1) 現状分析

① 単語頻度分析

口腔機能低下対策の現状に関する単語頻度分析の結果を図5に示す。自治体カテゴリーごとの出現頻度の内訳については色分けして記載した。全体として、高い頻度で抽出された用語は「実施」「口腔機能低下」「歯科衛生士」であった。「歯科衛生士」についてはカテゴリー1・2の自治体からは抽出されなかったが、カテゴリー3～5の自治体で高頻度に認められた。

図5 高齢期の口腔機能低下対策の現状：単語頻度分析



② 特徴語抽出

口腔機能低下対策の現状に関する自治体の規模カテゴリーごとの特徴語の抽出リストを表3に示す。実施方法・体制に関する単語として、カテゴリー3の自治体では「DVD」「自主グループ」、カテゴリー4の自治体では「通いの場」「口腔機能向上教室」、カテゴリー5の自治体では「口腔体操」が抽出された。

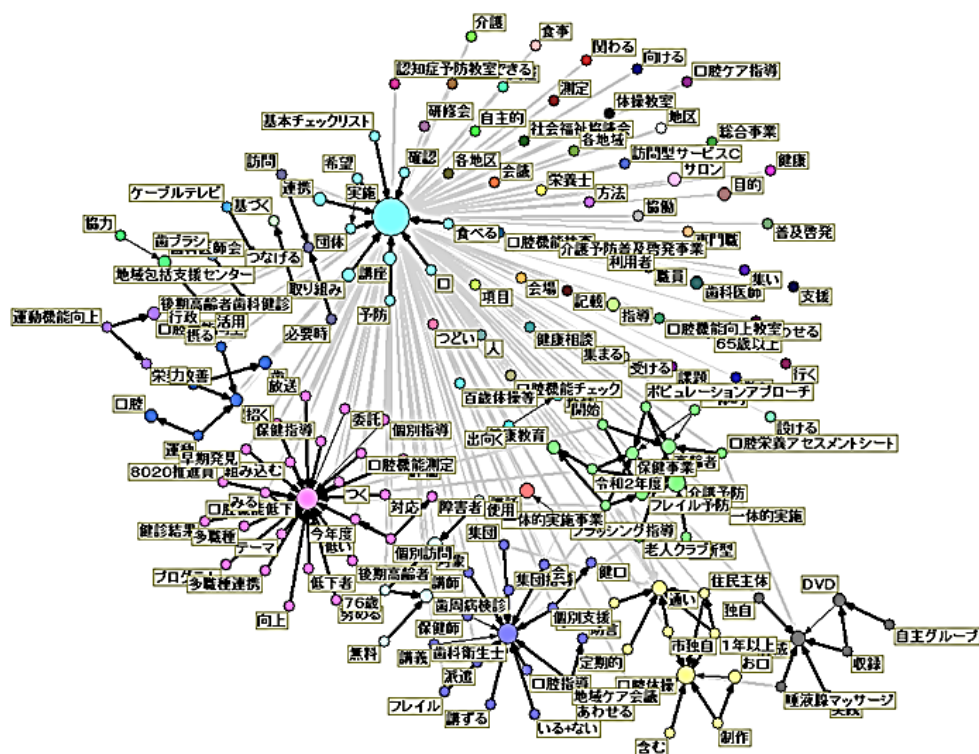
③ ことばネットワーク分析

口腔機能低下対策の現状に関することばネットワーク図を図6に示す。ノード（集合点）を形成した単語のうち、「実施」は市民団体や基本チェックリストなどと結びついていた。「口腔機能低下」と結びついていたのは「多職種連携」や「口腔機能測定」などの単語であった。「歯科衛生士」と結びついていたのは「派遣」や「集団指導」等の単語であった。

表3 高齢期の口腔機能低下対策の現状：特徴語抽出

自治体カテゴリー1	指標値	自治体カテゴリー2	指標値	自治体カテゴリー3	指標値	自治体カテゴリー4	指標値	自治体カテゴリー5	指標値
高齢者	9.04	DVD	8.984	普及	8.047	実施	12.932	なし	6.46
		講座	6.276	通いの場	6.271	歯科衛生士	10.977	口腔体操	5.731
		お口	5.537	口腔機能向上教室	5.265	口腔ケア	9.648	講話	5.555
		教室	5.537	連携	4.655	行く	5.85	活用	4.815
		健口（けんこう）	5.415	歯科医師会	4.088	対象	5.641	いる+ない	4.417
		自主グループ	5.415	基づく	3.949	介護予防	5.621	会	4.417
		栄養士	5.046	歯科医院	3.949	通い	5.242	各地域	4.417
		指導	4.789	努める	3.949	口腔機能低下	5.108	高い	4.417
		健口	4.676	参加	3.745	歯周病検診	4.577	歯ブラシ	4.417
		講演会	4.676	専門職	3.745	入れる	4.482	重要性	4.417
		作成	4.551	派遣	3.745	周知	3.704	介護	3.964
		連携	4.429	高齢者	3.285	普及啓発	3.704	会議	3.964
		市民	4.307	受ける	3.189	講話	3.589	各地区	3.964
		団体	4.307	一環	2.986	目的	3.21	入る	3.964
		地域包括支援センター	4.307	取り入れる	2.986	サロン	3.115	健康教育	3.854
		予防	4.307					ブラッシング指導	3.512
		口腔機能向上	4.06						
		住民主体	3.568						

図6 高齢期の口腔機能低下対策の現状：ことばネットワーク

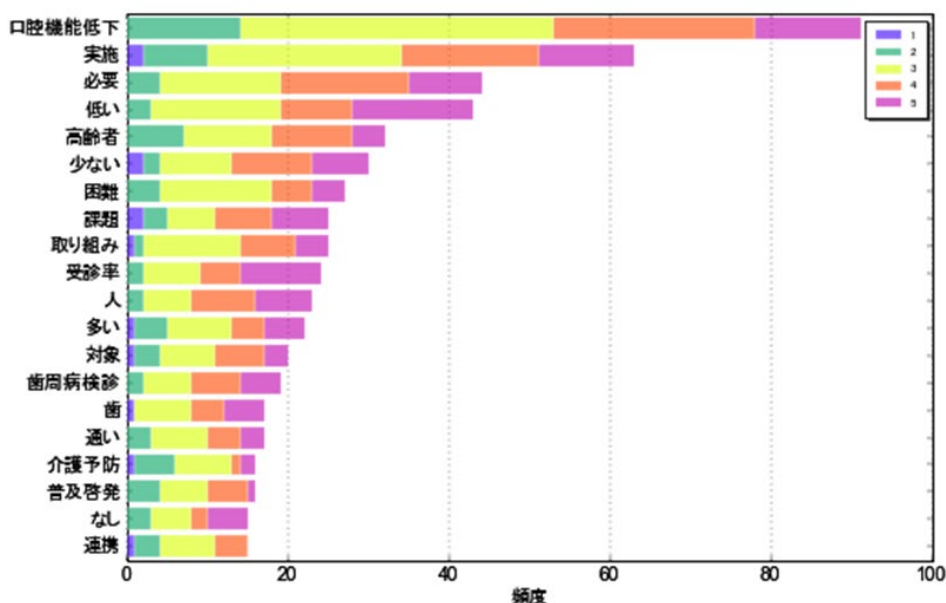


(2) 課題分析

① 単語頻度分析

口腔機能低下対策の今後の課題として自治体が認識している単語の出現頻度を図7に示す。高頻度で抽出されたのは「口腔機能低下」「実施」「必要」であった。カテゴリ1の自治体を除いた多くの自治体において、口腔機能低下対策の必要性が強く意識されていた。

図7 高齢期の口腔機能低下対策の課題：単語頻度分析



② 特徴語抽出

口腔機能低下対策の課題に関する自治体の規模カテゴリごとの特徴語の抽出リストを表4に示す。カテゴリ2の自治体では「介護予防」「普及啓発」、カテゴリ3の自治体では「困難」「市民」「把握できない」、カテゴリ4の自治体では「実施できない」、カテゴリ5の自治体では「早期」「アプローチ」「歯科衛生士」が特徴的に抽出された。

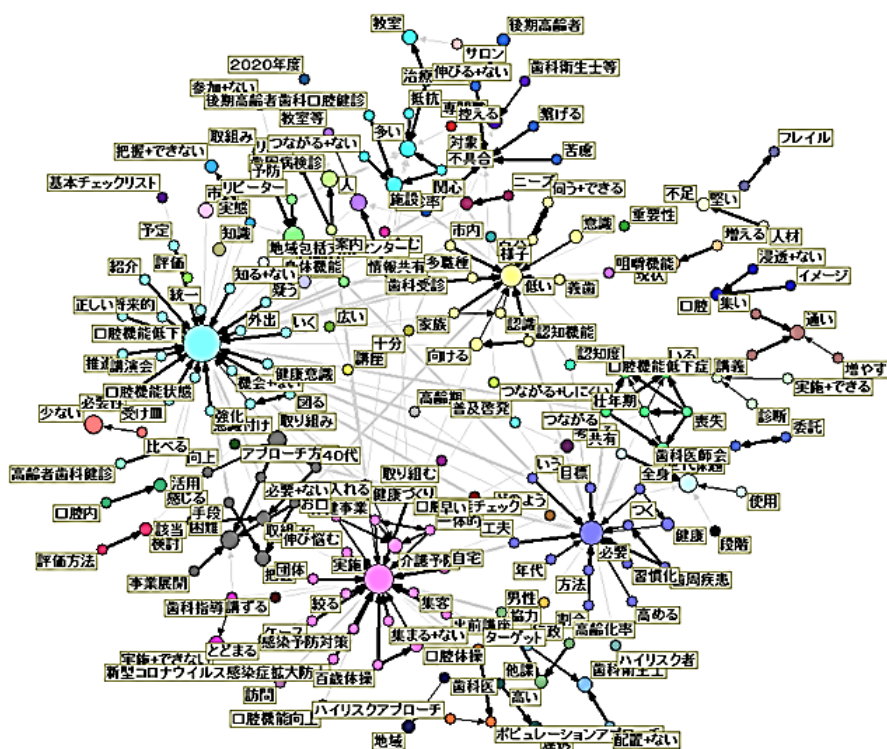
③ ことばネットワーク分析

口腔機能低下対策の課題に関することばネットワーク図を図8に示す。ノード（集合点）を形成した単語のうち、「口腔機能低下」は意識づけに関連する単語と結びついていた。「実施」と結びついていたのは集めることの難しさや感染予防対策などに関連する単語であった。「実施」と結びついていたのは習慣化を図る工夫などに関連する単語であった。

表4 高齢期の口腔機能低下対策の課題：特徴語抽出

自治体カテゴリー1	指標値	自治体カテゴリー2	指標値	自治体カテゴリー3	指標値	自治体カテゴリー4	指標値	自治体カテゴリー5	指標値
課題	8.633	口腔機能低下	11.536	口腔機能低下	15.119	実施+できない	8.032	低い	12.22
少ない	7.824	高齢者	10.801	困難	9.58	必要	7.969	受診率	10.692
		介護予防	10.027	市民	9.351	思う	6.095	現状	5.892
		高い	8.666	取り組み	6.85	いる+ない	5.754	自分	5.499
		普及啓発	6.876	口腔	5.99	講座	5.754	感じる	5.15
		利用者	5.586	把握+できない	5.257	歯科衛生士	5.188	割合	4.953
		取り組む	5.228	意識	4.524	支援	5.127	早期	4.953
		診断	5.228	実施	4.174	実施+ない	5.127	アプローチ	4.408
		早い	5.228	実態	4.094	検討	4.841	歯科衛生士	4.408
		口腔機能低下症	4.87	連携	3.691	考える	4.841	人	4.102
		必要性	4.87	お口	3.361	歯科指導	4.785	考える	4.059
		多い	4.726	活用	3.361	住民	4.5	なし	3.71
		フレイル	4.512	歯科保健	3.361	影響	4.159	案内	3.666
		継続	4.154	内容	3.361	本人	4.159	堅い	3.666
		向上	4.154	指導	3.16	人材不足	3.532	伺う+できる	3.666
		支援	4.154	介護予防	2.958	少ない	3.413	歯周疾患	3.666
		なし	4.083			人	3.358	質問票	3.666
		連携	4.083			歯科医院	3.246	様子	3.666

図8 高齢期の口腔機能低下対策の課題：ことばネットワーク分析



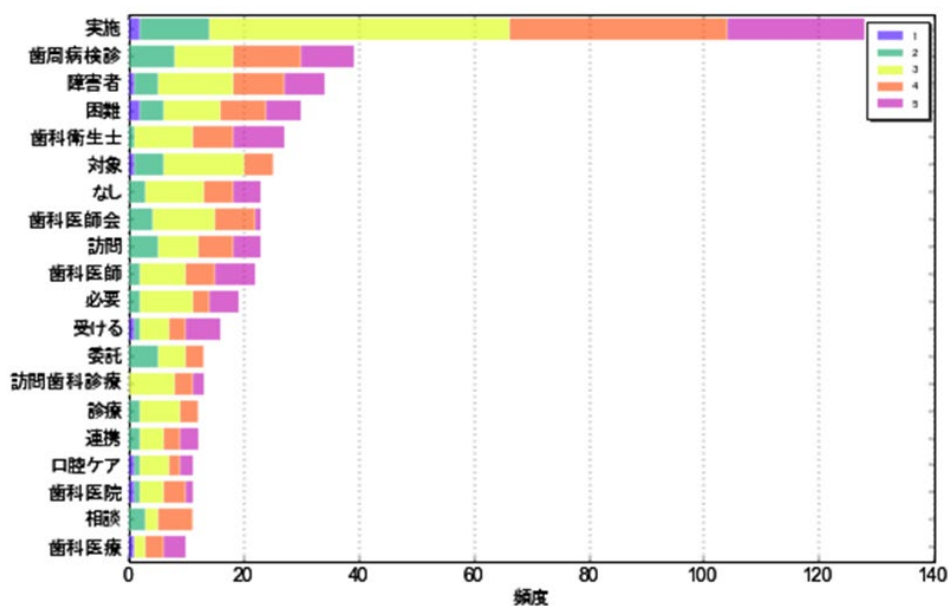
3. 障害者・児への歯科保健サービス提供

(1) 現状分析

① 単語頻度分析

障害者・児への歯科保健サービス提供の現状に関する単語頻度分析の結果を図9に示す。自治体カテゴリーごとの出現頻度の内訳については色分けして記載した。全体として、高い頻度で抽出された用語は「実施」「歯周病検診」「障害者」であった。全カテゴリー自治体において「障害児」の抽出は少なかった。

図9 障害者・児への歯科保健サービス提供の現状：単語頻度分析



② 特徴語抽出

障害者・児への歯科保健サービス提供の現状に関する自治体の規模カテゴリーごとの特徴語の抽出リストを表5に示す。カテゴリー1の自治体では「困難」、カテゴリー2では「委託」、カテゴリー3では「対象」、カテゴリー4では「相談」、カテゴリー5では「歯科衛生士」が特徴的な単語として抽出できた。

③ ことばネットワーク分析

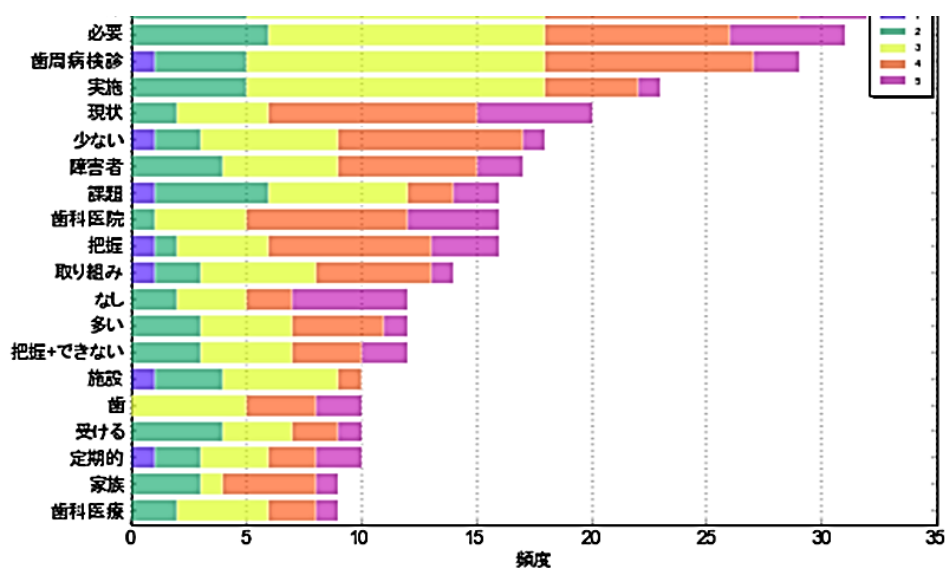
障害者・児に関することばネットワーク図を図10に示す。ノード（集合点）を形成できたのは「実施」のみであり、トピックスが十分に集約できない状況であった。

(2) 課題分析

①単語頻度分析

障害者・児への歯科保健サービスの提供に関する今後の課題として自治体が認識している単語の出現頻度を図 11 に示す。高頻度で抽出されたのは「困難」「必要」「歯周病検診」であった。「困難」「必要」はすべての自治体カテゴリーで認められた。「歯周病検診」はカテゴリー 2～5 の自治体にて認められた。

図 11 障害者・児への歯科保健サービス提供の課題：単語頻度分析



②特徴語抽出

障害者・児への歯科保健サービスの提供に関する自治体の規模カテゴリーごとの特徴語の抽出リストを表 6 に示す。カテゴリー 1 の自治体では「対象」、カテゴリー 2 の自治体では「実態」「把握+ない」、カテゴリー 3・4 の自治体では「訪問歯科診療」「歯科治療」、カテゴリー 5 の自治体では「訪問」が特徴的に抽出された。

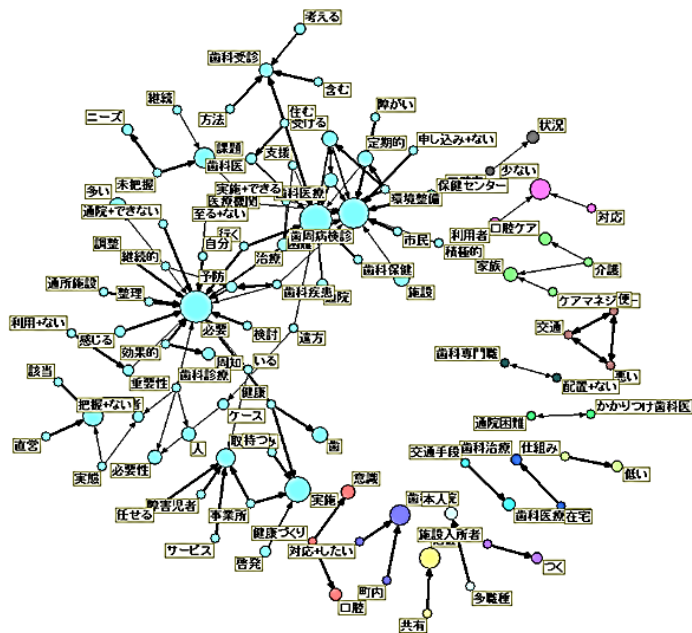
③ ことばネットワーク分析

障害者・児への歯科保健サービスの提供に関することばネットワーク図を図 12 に示す。ノード（集合点）を形成した単語のうち、「困難」は医療機関に関連する単語と結びついていた。「必要」と結びついていたのは整理や検討などに関する単語であった。「歯周病検診」と結びついていたのは環境整備などに関連する単語であった。

表 6 障害者・児への歯科保健サービス提供の課題：特徴語抽出

自治体カテゴリー-1	指標値	自治体カテゴリー-2	指標値	自治体カテゴリー-3	指標値	自治体カテゴリー-4	指標値	自治体カテゴリー-5	指標値
対象	11.416	課題	7.479	実施	8.958	現状	7.722	訪問	8.7
		実態	7.227	訪問歯科診療	6.167	本人	6.836	なし	7.857
		受ける	7.146	実施+できない	4.88	少ない	6.726	町内	6.525
		把握+ない	6.397	どのような	4.37	歯科治療	6.459	つなげる	5.146
		介入	4.818	感じる	4.37	意識	6.217	思う	5.146
		環境整備	4.818	予防	4.37	歯科医院	5.731	確保	4.886
		適切	4.818	歯周病検診	4.295	把握	5.731	往診	4.35
		家族	4.737	市内	4.103	受診率	5.597	歯科保健対策	4.35
		実施	4.574	かかりつけ歯科医	3.861	歯科医療機関	5.221	情報提供	4.35
		至る+ない	4.403	口腔機能低下	3.861	困難	4.759	町	4.35
		歯科診療	4.403	積極的	3.861	つく	4.225	不明	4.35
		体制整備	4.403	対応	3.861	整う+ない	4.225	意識	4.226
		提供	4.403	周知	3.593	実態把握+できない	3.606	現状	3.979
		施設	4.322	利用者	3.593			悪い	3.89
		障害者	4.24	歯科受診	3.326			交通	3.89
		必要	4.077	人	3.326			指導	3.89
		重要性	3.573					便	3.89
								歯科衛生士	3.431
								通院	3.431

図 12 障害者・児への歯科保健サービス提供の課題：ことばネットワーク



D. 考察

テキストマイニング分析を行うことによって、「成人期における歯周病」、「高齢期における口腔機能低下」、「障害者・児における歯科疾患対策」における現在の実施状況に関する問題点と今後の課題について、定性データの抽出を行うことができた。定量データ歯周病対策と口腔機能低下対策については、自治体の規模によって抽出される用語が異なり、人口規模の影響を受ける傾向が認められた。一方、「障害者・児への歯科保健サービス」については問題点に関する用語は多く抽出されたが、今後の課題に関するテキスト内容は少なく、いずれの自治体も今後の事業拡充に向けた具体策の検討に至っていない傾向にあった。このように、事業によって状況がかなり異なるため、事業ごとに考察を行う。

1. 成人期における歯周病対策

歯周疾患は歯科の二大疾病のひとつであるとともに、健康増進法による歯周疾患検診があるため、多くの自治体で歯周病対策に取り組んできた経緯がある。そのため、現状分析で抽出された関連単語は、他事業との連携実施や具体的な実施方法や体制に関わるものが多かった。自治体によっては、健康増進法による歯周疾患検診の対象者を広げ、40歳から5歳刻みで検診を実施していた自治体もあることが影響していると考えられた。また、保健所が設置されていない自治体では「母子保健事業」や「特定健診」が抽出されたことから、歯周疾患検診の受診率を向上させるために他事業の受診者にも働きかけている状況が示唆された。また、最も規模が小さいカテゴリー5の自治体では「集団」が抽出されたことから、歯科医院での個別検診・指導ではなく集団検診・指導で行う傾向があると考えられた。

今後の課題については、いずれの自治体においても歯周病検診の受診率の向上の必要性を認識していたが、カテゴリー5の自治体ではサービス提供のための人員確保に関する単語が抽出されており、カテゴリー1～4の自治体と大きく状況が異なっていた。自治体における歯周疾患検診の実施率は経年的に増加しているものの72.6%にとどまり、約4分の1の自治体で未実施である。この要因の一つとして、人口規模の小さい自治体では歯周病検診や歯周病に関する保健指導を実施できる歯科専門職が少なく、検診ができない状況になっている可能性が高い。これらのことを総合的に勘案すると歯周病対策は自治体の事業実態体制に関するストラクチャー分析を行ったうえで対策を企図することが必須であると考えられた。

2. 高齢期における口腔機能低下対策

口腔機能低下対策は、超高齢社会における歯科保健の大きな課題である。介護保険による介護予防対策としての継続的な取り組みに加え、オーラルフレイルの一般住民への周知が進んだことにより、重点的に対策に取り組む自治体も増加している。本研究による現状分析でも、口腔体操などの口腔機能向上プログラムの提供に対して具体的な用語が高頻度に抽出された。また、令和2年度から開始された「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」に基づく通いの場での口腔機能向上プログラムの提供に関連する用語も抽出されており、国の施策動向を反映した取り組みが示された。カテゴリー3～5の自治体においては「歯科衛生士」が特徴的に抽出された。これらの保

健所設置がない自治体では、行政に歯科衛生士が十分に配備されておらず、頻度が高い単語として抽出されたものと考えられる。

課題分析でも、自治体の規模による違いが明らかになった。カテゴリ 3～5 の自治体において、口腔機能低下者を十分に把握できないことや歯科専門職等が十分に確保できない傾向が示唆された。また、高齢者を集めてのプログラム提供や感染予防対策の困難さについても関連語が抽出された。コロナ禍のなかで、今後の口腔機能低下対策はウィズコロナの視点でプログラム提供を図る必要があり、これまでとは異なる工夫が求められる。また、歯科専門職が相対的に乏しい自治体に対して、口腔機能低下者をよりの確にスクリーニングできる評価方法を開発する必要性が示唆された。

3. 障害者・児への歯科保健サービス提供

障害者・児への歯科保健サービス提供については、歯周病対策や口腔機能低下対策とは大きく状況が異なっていた。現状分析にて、自治体間の差異は顕著ではなく、ことばネットワーク分析においても、ノード形成できた単語は「実施」のみであり、具体的な活動に関して集約できず、極めて多様性が高いと考えられた。

課題分析においても、自治体間の差異は顕著ではなく、実態把握や対象把握の困難性や訪問歯科診療など地域医療に関する単語が認められた。事業の必要性はいずれの自治体も強く認識しながらも、具体的な課題解決に向けた方策に関する記載は少なく、障害者・児への歯科保健サービスの提供について、国等が具体的な指針を提示する必要があると考えられた。

E. 結論

テキストマイニングの結果、歯周病対策と口腔機能低下対策では自治体の規模によって認識している課題に明らかな差異が認められた。歯周病対策においては、歯周疾患検診の受診率向上が、優先課題として挙げられていた。口腔機能低下対策では、口腔体操は多くの自治体での実施実績を有している傾向が認められた。一方、人口規模が最も小さい人口 1.5 万人以下の町村では歯周病対策と口腔機能低下対策を実施する専門職の不足を強く認識していた。

障害者・児への歯科保健サービス提供については、現状分析にて「困難」が最も多い頻度で抽出されたが、多様な取り組みがなされていたため、上述した 2 事業に比較して取り組みに関するトピックスが集約化できず、各自治体の認識にばらつきがあることが示唆され、具体的な対応策について検討が十分になされていないと考えられた。

F. 参考文献

- 1) 服部兼敏. テキストマイニングで広がる看護の世界. ナカニシヤ出版 2010 年.
- 2) 末吉美喜. テキストマイニング入門. オーム社 2019 年.

G. 研究発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

